

■ そろそろ夏の到来です



梅雨に入り雨の多い季節になりましたが、皆様、様々な臨床現場でご活躍のことと存じます。もう目の前まで夏がやってきているように感じます。臨床現場では子どもたちが、大学では学生たちが夏休みを楽しみにしている様子を度々見かけます。東京支部会員の皆様におかれましては、夏のイベントとして旅行などに加えて全国大会や研修会へとお出かけ頂ければ幸いです。東京支部の役員は5月より新体制となりました。今回も新しいお知らせがたくさんあります。今後ともよろしくお願いいたします。

■ 目次

1. 2009 年度日本臨床発達心理士会東京支部第4回総会の報告
2. 2008 年度活動報告
3. 2009 年度活動計画
4. 2008 年度決算報告
5. 2009 年度予算案
6. 2009 年度第2回東京支部役員会(報告)
7. 2009 年度第1回資格更新研修会の報告
8. 発達臨床研究ネットワーク研修会「第1回ラウンドテーブル」のお知らせ【新情報】
9. 「東京都の特別支援教育に携わる臨床発達心理士養成研修会」のお知らせ【新情報】

1. 2009 年度日本臨床発達心理士会東京支部第4回総会の報告

日時：2009年5月31日(日) 11:30~12:00 筑波大学大塚キャンパス G501

以下の事項についての報告と審議が行われた。

司会の開会宣言の後、森氏が議長として選出された。東事務局より定足数の確認が行われ、参加者76名と委任状134名をあわせ、会員516名の4分の1の定足数を満たしたため、総会成立との旨の報告があった。

【報告事項】

- (1) 2008 年度活動報告：竹谷旧支部長より報告された。
- (2) 2008 年度決算報告：菊地新会計より報告された。
会計監査三山氏より「相違ない」との監査報告がなされた。

【審議事項】

- (1) 東新事務局より支部会規定改定について提案があり、承認された。
改定の理由は以下の通りである。
 - ①これまで本部が徴収していた支部会費2000円を2009年度より支部が直接徴収する
 - ②本部、事務局、会計住所を変更する
 - ③会計監査を役員外から選出する
- (2) 支部長、副支部長、会計監査の選出
役員半数を含む「選出委員会」を設置し、以下の推薦を行い、承認された。
支部長：竹谷志保子、副支部長：川間健之介、副支部長・幹事：須田治、会計監査：依頼中
- (3) 役員紹介
(継続)会計：菊地真由美、事務局：東敦子、研修担当：宇賀神るり子、正田康恵、黒田美保、大倉滋之、仲村照子、松村裕美、市川裕二、田中雅子、ニューズレター担当：田島洋介
(新役員)佐島毅、小野里美帆、小野寺敦子、高橋道子、加藤弘美、坪井寿子、中内麻美、河島恵美子、山中ともえ、原恵子
- (4) 2009 年度活動計画が竹谷新支部長より報告され、承認された。
- (5) 2009 年度予算が新支部長竹谷氏より報告され、承認された。

- (6) その他、事務局より、ホームページ開設の説明と口座開設の説明がなされた。
議事終了後、議長の解任がなされ、閉会となった。

2. 2008 年度活動報告

1) 総会の実施

規定に基づき、2008 年 6 月 8 日（日）筑波大学（大塚）にて総会を開催し、2008 年度の活動計画と予算を決定した。

2) 研修会・研究会等の開催

表 1 の計画に沿って研修会を開催した。

3) 「ニューズレター」の発行

ニューズレターを年 3 回発行し、支部の活動報告、研修予定などを伝えた。

4) 特別支援教育事業への協力（職域開発）

文京区教育委員会、東京都教育委員会からの依頼により、支部としてスタッフ配置を行った。

(1) 文京区巡回相談

対象校：小学校 20 校、中学校 11 校 担当者 19 名

特別支援教育コーディネーター連絡会への参加

(2) 都立特別支援学校（職業技術科）への配置

対象校：永福学園 担当者 3 名 時間数 200 時間

(3) 文部科学省「高等学校における発達障害支援モデル事業」

対象校：都立世田谷泉高等学校 担当者 2 名

(4) 都立高等学校巡回相談

対象校：5 校 担当者名 8 名

5) ネットワークづくり

特別支援教育ネットワークを立ち上げ、研修会・情報交換会を行った。

6) 日本臨床発達心理士会、及び他支部への参加・協働

(1) 日本臨床発達心理士会幹事会、職能委員会、倫理委員会に参加した。

(2) 日本臨床発達心理士会主催国際ワークショップ（8/5～8/7）の開催に協力した。

(3) 神奈川、茨城、栃木、群馬各支部と合同で研修会を実施した。

7) 2008 年度の研修会報告

2008 年度、東京支部において実施した研修会は、「資格更新研修会」2 回、「文京区巡回相談員研修会」3 回、「特別支援教育 NW 研修会」3 回であった。研修会内容は、表 1 に示したとおりである。

表 1 2008 年度研修内容一覧

(敬称略)

<日 程>	<資格更新研修会>
2008 年 6 月 8 日（日） 筑波大学（大塚）	第 1 回東京支部資格更新研修会 研修 1 ディスレクシアのアセスメントと指導について 大石敬子（明治学院大学）
	研修 2 発達障害への薬物療法 日原信彦（横浜市東部地域療育センター）
2008 年 12 月 7 日（日） 東京学芸大学	第 2 回東京支部資格更新研修会 研修 3 K 式発達検査の実施と応用 清水里美（京都国際社会福祉センター）
	研修 4 問題行動のアセスメントと支援 佐竹真次（山形県立保健医療大学）
<日 程>	<文京区巡回相談員研修会>
2008 年 5 月 16 日（金） 文京区民センター	第 1 回 文京区の特別支援教育について 杉渕尚（文京区教育委員会指導主事）
2008 年 12 月 23 日（金） 文京区民センター	第 2 回 文京区の特別支援教育について 2 巡回相談員 4 名による話題提案と討議

2009年2月20日(金) 文京区民センター	第3回 文京区の特別支援教育について3 巡回相談員4名による話題提案と討議
<日 程>	<特別支援教育NW研修>
2008年10月26日(日) 筑波大学(大塚)	第1回 「通常学級における“授業づくり, 学級経営”のための事例検討」 菅原真弓(立川市立第九小学校) 「特別支援学校の特別支援教育コーディネーターによる巡回相談」 田中雅子(東京都立高島特別支援学校)
2009年1月11日(日) 筑波大学(大塚)	第2回 「通常学級の特別支援—今日からできる! 40の提案—」 佐藤慎二(植草短期大学)
2009年1月18日(日) 上智大学	脳科学・遺伝学的研究における最新情報から考える自閉症への支援 畠中雄平(高知県立療育福祉センター長)

3. 2009年度活動計画

1) 特別支援教育事業への協力(職域開発)

東京都教育委員会, 文京区教育委員会からの依頼により, 支部としてスタッフを配置している。

①と, ②の青峰学園が新規事業として増えた。

①文部科学省「高等学校における発達障害支援モデル事業」

対象校: 都立足立東高等学校(新規事業) 担当者: 2~3名

注: 2007~2008年度のモデル事業実施校の世田谷泉高校は, 3)の高校巡回として継続している。

②都立特別支援学校(職業技術科)への配置

対象校: 2校(永福学園・継続280時間, 青峰学園・新規80時間) 担当者4名

③都立高等学校巡回相談

対象校: 6校 巡回担当者名10名 配置時間270時間

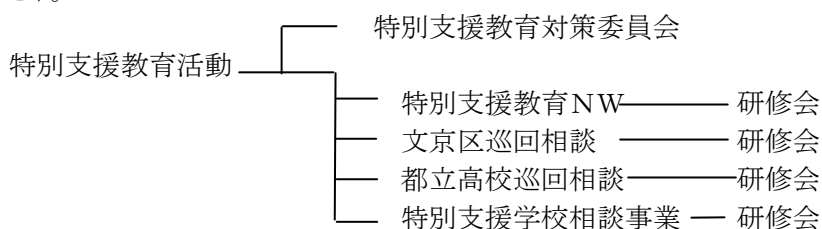
④文京区巡回相談

対象校: 小学校20校, 中学校10校 巡回担当者16名

特別支援教育コーディネーター連絡会への参加

2) 特別支援教育関係の活動の体系化

これまで行ってきた特別支援教育関係の活動を整理し体系化する(各名称については未確定のものを含む)。



3) ネットワーク作り

① 特別支援教育ネットワーク

特別支援教育に関わる教員を中心としたネットワークグループ

② 子育て・発達支援ネットワーク(新規)

乳幼児期の子育て支援, 発達支援に関わる臨床発達心理士を中心としたネットワーク

③ 発達臨床研究ネットワーク(新規)

発達臨床研究に携わる研究者を中心としたネットワーク

4) 研修会・研究会等の開催

表2 2009年度研修内容一覧

研修会	日程
東京支部資格更新研修会 第1回	2009年6月8日(日)
東京支部資格更新研修会 第2回	2009年11月～12月頃
東京都の特別支援教育に携わる臨床発達心理士 養成研修 3日間・全6講義	2009年8月10日(月) 2009年10月 2010年1月
特別支援教育ネットワーク研修(2回)	2009年8月10日(月) 2010年1月24日(日)
発達支援ネットワーク研修(3回)	2009年7月19日(日) 2009年10月～11月頃 2010年1月～2月頃
発達臨床研究ネットワーク	2009年9月
文京区巡回相談研修会(3回)	2009年5月16日, 8月～1月頃
高等学校・特別支援学校巡回相談研修会(3回)	未定

4. 2008年度日本臨床発達心理士会 東京支部 決算報告

会計期間: 2008年4月1日～2009年3月31日

(単位: 円)

【収入の部】

項目	予算額	決算額	比較増減
1. 会費	904,000	920,000	16,000
2.5 支部合同研修会(合同開催支部以外の方)参加費	0	8,000	8,000
3. ゆうちよ銀行利子	0	3,182	3,182
4. 前年度繰越金	1,262,559	1,262,559	0
合計	2,166,559	2,193,741	27,182

【支出の部】

1. ニュースレター発行費(3回)	320,000	351,151	-31,151
2. 通信費	120,000	80,300	39,700
3. 活動費			
支部研修会(2回)			
会場費	60,000	44,594	15,406
講師謝礼	128,000	172,040	-44,040
運営費	10,000	9,722	278
文京区巡回相談研修会(3回)			
会場費	4,800	4,800	0
特別支援教育NW研修会(2回)			
会場費	40,000	11,302	28,698
講師謝礼	64,000	17,000	47,000
運営費	10,000	4,067	5,933
発達支援NW研修会(2回)			
会場費	40,000	0	40,000
講師謝礼	64,000	0	64,000
運営費	10,000	0	10,000
5 支部合同研修会(神奈川・茨城・栃木・群馬)	300,000	225,163	74,837
4. 印刷代	100,000	82,100	17,900
5. 会議費	100,000	72,000	28,000
6. 事務用品/備品	50,000	129,195	-79,195
7. 国際ワークショップ協力金	200,000	200,330	-330
支出合計	1,620,800	1,403,764	217,036
8. 予備費	545,759	0	545,759
総計	2,166,559	1,403,764	762,795

差引残高 789,977 円は2009年度東京支部への繰り越し金といたします。

以上、ご報告いたします。

2009年5月31日

日本臨床発達心理士会東京支部
支部長 竹谷 志保子
事務局長 東 敦子

5. 2009 年度 日本臨床発達心理士会 東京支部 予算案

【収入の部】

摘要		備考・内訳
支部会費	1,032,000	2,000円×516名(5/30時点)
特別支援教育・養成研修	120,000	6000×20名
前年度繰越金	789,977	
計	1,941,977	

【支出の部】

摘要		備考・内訳	
研修会運営費	630,800	支部研修会(2回4講義)	会場費 50,000
		32,000×4人	講師謝礼 128,000
			運営費 10,000
		文京区巡回相談研修会(3回)	会場費 4,800
		特別支援教育・養成研修(3回6講義)	会場費 60,000
		32,000×6人	講師謝礼 192,000
			運営費 15,000
		特別支援教育NW研修会(2回)	会場費 20,000
	32,000×2人	講師謝礼 64,000	
		運営費 5,000	
		発達支援NW研修会(3回)	会場費 20,000
		32,000×1人	講師謝礼 32,000
			運営費 5,000
		発達臨床研究NW(2回)	会場費 20,000
			運営費 5,000
事務局運営費	160,000	PCソフト代	40,000
		アルバイト代等	10,000×12ヶ月 120,000
HP運営費	70,000	運営・通信費等(4,980×12+α)	
ニュースレター発行費(3回)	458,000	1回目 ¥200,000+(印刷・郵送単価250円×516名×2回)	
通信費	130,000	会員への研修案内、事務書類発送等(80×516×3+α)	
印刷代	100,000	総会資料、役員会資料、研修会資料等	
会議費	120,000	役員交通費(2000×20人×3回)2回は交通費無し	
事務用品/備品	130,000	会計印、記録保存・整理用USB、ファイル等	
支出合計	1,798,800		
予備費	143,177		
総計	1,941,977		

収入総計 1,941,977円 - 支出総計 1,798,800円 = 残高 143,177円

6. 2009年度第2回東京支部役員会(報告) 日時:2009年5月31日(日) 17:00～

出席:竹谷, 須田, 川間, 菊池, 宇賀神, 黒田, 大倉, 松村, 東, 小野里, 高橋, 坪井, 中内, 山中, 河島
欠席:正田, 仲村, 田島, 田中, 市川, 佐島, 小野寺, 加藤, 原

1) 総会・第1回研修会反省会

- (1) 総会: 委任状 134 名, 出席 76 名, 計 210 名 会員 516 名の 1/4 以上で成立。
- (2) 研修会: 午前: 61 名, 午後 131 名
- (3) 会計(菊池, 加藤): 印鑑の購入・口座の開設
- (4) 研修担当者
 - ① 資格更新研修会(黒田, 宇賀神, 小野里, 中内, 原)
 - ② 養成研修会(山中, 正田, 大倉)
 - ③ 特別支援教育ネットワーク研修会(田中, 正田)
 - ④ 子育て・発達支援ネットワーク研修会(高橋, 河島)
 - ⑤ 発達臨床ネットワーク研修会(須田, 小野寺, 佐島)
- (5) 巡回相談担当
 - ① 文京区(松村, 坪井)
 - ② 特別支援学校(黒田, 仲村)
 - ③ 都立高等学校(松村, 高橋)
 - ④ 高等学校における発達障害支援モデル事業(竹谷)
 - ⑤ 特別支援教育対策委員会(川間, 松村, 黒田, 山中, 大倉, 長崎, 大石)
- (6) ニュースレター(田島, 中内)
- (7) HP 管理人
 - ① 特別支援教育NW・・・田中
 - ② 子育て・発達支援NW・・・高橋
 - ③ 発達臨床研究NW・・・須田
 - ④ 役員掲示板, その他・・・東

2) 会計について

会計監査・・・上野道子, 田坂裕子氏より承諾を得られた。

3) ネットワーク研修会について

- (1) 特別支援教育 NW 研修会・・・NL, HP に案内済み
- (2) 子育て・発達支援NW研修会・・・NL, HP に案内済み
- (3) 発達臨床研究NW・・・次回NLに掲載予定

4) その他

- (1) 幹事須田先生より
会費の余剰金について, 安定運営のために積立してはどうかと提案があった。

(文責: 東敦子)



7. 2009 年度第 1 回資格更新研修会の報告

- 日 時：2009 年 5 月 31 日(日)
- 場 所：筑波大学大塚キャンパス
- 研修会1 午前の部(9:30～11:30) テーマ：臨床発達心理士としての倫理
講 師：前川あさ美 氏（東京女子大学）

臨床発達心理士として支援をしている時、倫理的問題に直面して、ジレンマを体験することは、よくあることである。このような倫理的問題に対して、様々な角度から検討することは、心理士の専門性を磨くことにつながる。臨床発達心理士の倫理綱領には、「この倫理綱領を十分に咀嚼し」とあるが、まさに、一つ一つ自問自答しながら咀嚼し、消化していくことが大切である。前川先生は、このような考えを前提に、次のような問題を提起し、フロアーと共に検討を行った。それは、(1) 記録の取り方と開示の関係 (2) 検査結果の提供の問題 (3) 子どもの情報をどこまで保護者に伝えるかの問題 (4) 臨床と研究発表の問題などである。

まとめとして、臨床発達心理士倫理綱領の課題を指摘しつつ、倫理的問題の解決に、「一つの正答がないということ」「ジレンマを大切にしてほしいこと」「支援を必要とする相手の利益を常に第一に考えること」が重要であると示した。
(文責:市川裕二)

- 研修会2 午後の部(13:00～16:00) テーマ：心理検査の最新情報と利用法
講 師：岡崎慎治 氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科講師）

最新の検査として DN-CAS そして WISC-IV の構成と解釈についての詳細な資料を提示して頂きながら、ご講演いただいた。はじめに、知能検査の基礎となっている知能理論と認知処理過程の重要性について、ご説明いただいた。次いで、検査結果の解釈を行う際に重要な視点として、行動観察から読み取ることができる情報処理様式と情緒面の特徴を挙げられていた。下位検査に対する子どもの反応は、情報処理様式を示している。また、動機づけ、好み、覚醒などの情動面から読み取れる特徴は見逃してはならない情報の 1 つであり、環境ごとの行動特徴を予測することができることを強調されていた。心理検査から得られる多くの情報から、子どもの認知特性および行動特徴を見出し、実用的な支援を導き出すことが臨床発達心理士の役割であると考えられた。
(文責:中内麻美)

● 研修会についてのアンケートの集計結果—参加者数、研修会に対する満足度、感想、要望について—

	非常に満足	おおむね満足	やや不満	大いに不満	総計
東京支部小計	23 人	28 人	1 人	0 人	52 人
	44.2%	53.8%	1.9%	0.0%	100.0%
東京支部以外小計	0 人	3 人	0 人	0 人	3 人
総計	23 人	31 人	1 人	0 人	55 人
	41.8%	56.4%	1.8%	0.0%	100.0%

※ 東京支部以外の参加者の所属は神奈川・長野・茨城支部

1) 参加者の感想

- ・臨床発達心理士の倫理について、事例を通して身近なテーマを扱っていたので興味深く拝聴した。
- ・「倫理」について、考え方のトレーニングのような形式の研修は初めてで、有益であった。
- ・倫理については仕事を進めていく上で重要なことなので、今後も取り上げてほしい。
- ・DN-CAS の実物を扱ったことがないので、内容が難しかった。
- ・DN-CAS について、とてもわかりやすく精緻に講義がなされ、大変勉強になった。臨床の場で生かしていきたい。
- ・午前、午後とも時間が足りなかった。

2) 今後研修に取り上げてほしいテーマ（要望）

- ・発達検査について ・ケース会議 ・倫理について
- ・WISC-IV について ・家族支援 ・特別支援教育 ・移行支援(就労支援)
- ・最新の脳科学を含む発達障害にかかわる医学的な情報 ・気になる行動のある生徒への対応

(文責:大倉滋之)

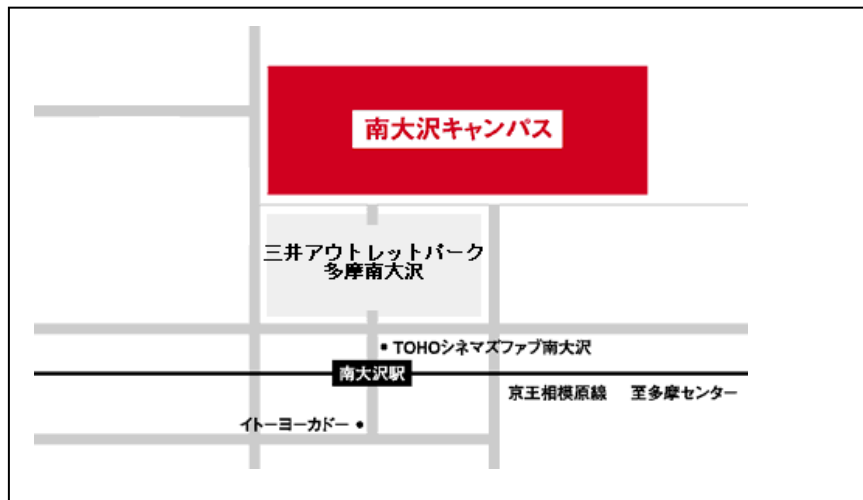
8. 「発達臨床研究ネットワーク研修会——第1回 困難からの回復力」のお知らせ

- 主催： 臨床発達心理士会 東京支部
- 日時： 2009年9月7日（月）
- 時間： 午後13時から午後16時20分（3時間）途中休憩あり
ショート・ラウンドテーブルを加えて午後17時解散
- 場所： 首都大学東京南大沢キャンパス（京王相模原線南大沢） 国際交流会館中ホール（予定）
注）会場変更の場合は、東京支部の掲示板でお知らせします。
- 応募条件： 発達臨床研究に関わっている（あるいは関わろうとしている）方であり、
臨床発達心理士有資格者、先着35人まで。
- 研修ポイント： 1ポイント（申請中）
- 内容構成：
 - 1）ラウンドテーブル1 困難からの回復力（レジリエンシー）を再考し、研究可能性を考えてみる
課題スピーチ：小野寺敦子氏・藤野博氏・須田治
 - 2）ショート・ラウンドテーブル2 次回への課題探索；（アスペルガー症候群など）
発達臨床事例への質的データ解析による接近法 司会：須田治ほか

●企画主旨： 発達臨床独自の研究を育むために研究交流を図ることによって、臨床発達心理学の独自の領域と研究の質的向上をめざすことにする。より新しい領域を拓き、傷つきやすさ、困難からの回復力などの発達論的解明、またその神経心理学的解明、あるいは適応支援の新たな方法論の開拓、さらには心理学問題の背景にある社会-環境的側面の解明など、広い範囲の発達臨床の課題を取りあげ、それに対する研究者としての取り組みを促進するための交流会議とする。参加者は、東京支部に限ることなく受入れ、研究を行なっている立場からの参加を原則とするが、研究への関心のある人びとの参加も受入れることとする。年1、2回の開催を検討している。

●申し込み方法：東京支部ホームページよりお申し込み下さい！ <http://www.jocdp-tokyo.net/>

（文責：須田 治）



9. 「東京都の特別支援教育（巡回相談等）に携わる臨床発達心理士養成研修会」のお知らせ

日本臨床発達心理士会東京支部では、2005年度以降、文京区の小・中学校や都立高等学校、軽度知的障害特別支援学校（職業技術科）への巡回相談、東京都が受けた文部科学省「高等学校における発達障害支援モデル事業」など、東京都の特別支援教育に関わる事業に支部として積極的に関わって参りました。

特別支援教育に関わる臨床発達心理士には、発達についての理解と支援に止まらず、精神疾患や不適切な社会的行動などの二次的障害、就労に向けての支援の視点、特別支援教育の制度、校内体制や学級経営についての理解など、幅広い知識と技術が求められます。

これらの事業を担当する臨床発達心理士の養成のために、2005年度から3年間に渡り「東京都の特別支援教育」特別研修会を実施し、特別支援教育に携わる臨床発達心理士の養成を行ってききましたが、今年度は名称

を「特別支援教育に携わる臨床発達心理士 養成研修」とし、下記の内容で実施を再開致します。講師や会場がまだ不確定ではありますが、特別支援教育に関わる上では大切な内容となっていますので、是非ご参加下さい。なお、会員として必須な他の資格更新研修会と異なり、専門性養成のための研修会ですので、有料となりますことをご了解下さい。

<日程・会場・プログラム>

☆いずれの日程も 9:00～受付、講義は午前 9:30～12:30、午後 13:30～16:30 です。

☆未定部分につきましては、詳細が決まり次第HPにてお知らせ致します。

第一回 8月10日(月) 筑波大学(大塚キャンパス)

9:30～12:30 「巡回相談における授業観察とコンサルテーションのポイント」

講師：立教大学 大石幸二氏

13:30～16:30 「発達障害のある生徒の就労支援～職業準備の課題～」

講師：城西国際大学 向後礼子氏

第二回 10月25日(日) 筑波大学(大塚キャンパス)

9:30～12:30 「東京都の特別支援教育と臨床発達心理士の役割」

*東京都の特別支援教育の制度とシステム(都・区の教育委員会担当者)

*巡回相談の実際と課題

(小・中学校、高等学校、特別支援学校巡回相談担当者)

13:30～16:30 「児童・生徒の実態と学校の課題～臨床発達心理士に望む支援～」

*巡回相談対象校の担当者

第三回 1月24日(日) 未定(筑波大学が使用できないため、都内の他の場所になります)

下記の内容で予定しています。

9:30～12:30 「思春期・青年期の学校不適応行動の理解と支援」

13:30～16:30 「通常の学級で発達障害のある児童・生徒のための指導上配慮すべき支援内容」

<受講条件>

1. 日本臨床発達心理士 有資格者
2. 東京支部から依頼した時に、実際に巡回相談員として勤務ができる方
あるいは、現在都内の学校の教員で特別支援教育コーディネーターか校内委員会のメンバーの方
3. 学校、あるいは児童・生徒に関係する臨床経験がある方
4. 3回の研修会すべてを受講できる方(原則)
*定員に空きがある場合、現在支部の巡回相談を担当している方や、2005年～2007年に実施した「東京都の特別支援教育」特別研修会で同様の内容の研修を受けられた方は、1講義ずつの研修について検討致します。事務局にご相談下さい。

<募集要項>

1. 募集人数 40名(申し込み多数の場合は、巡回相談が可能な方を優先させていただきます。)
2. 申し込み方法 所定の申込用紙(裏面)を以下の住所に郵送してください。
3. 申し込み締め切り 7月25日(土)
4. 申し込み郵送先 臨床発達心理士会東京支部事務局
〒125-0054 東京都葛飾区高砂 7-26-3 のぞみ発達クリニック 気付
5. 問合せ先 t-shiho@mtj.biglobe.ne.jp 竹谷

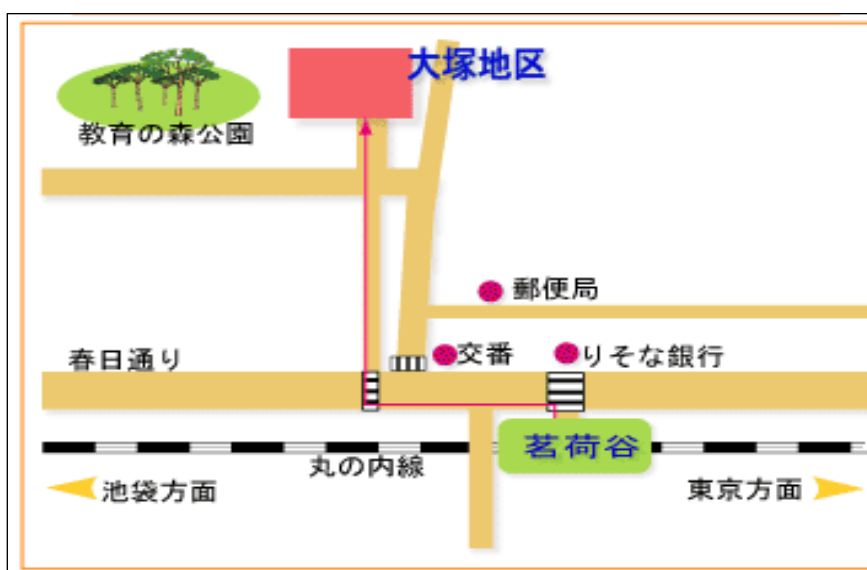
<受講費> 6,000円（3日分） 欠席しても返金しません。
第一回目の研修会の受付で一括徴収します。

<資格更新ポイント> 1 講義3時間で1ポイントです。

<当日の注意>

- ☆ IDカード、資格更新研修会参加記録ノート（以下、記録ノート）を必ずご持参下さい。
 - ☆ 事前に、記録ノートに必要事項をご記入いただいた上で、受付を行って下さい。
 - ☆ 記録ノートは、研修会終了後にお返しいたします。
 - ☆ 遅刻者、早退者には、ポイントが交付されません。
- （文責：竹谷志保子）

筑波大学大塚キャンパス地図



東京支部ニューズレター2009年度第2号(通巻9号) 2009.7 発行
編集: 中内麻美(NL 担当)

2009 年度 東京都の特別支援教育に携わる臨床発達心理士「養成研修会」 申込書

ふりがな 氏名		会員No.	
勤務先名			
連絡先	e-mail(できるだけパソコンのメールアドレスをお願いします) (アドレスをお持ちでない方は FAX 又は住所)		
学校／児童・生徒に関わる主な職歴			
時 期	職 務 内 容		
	教員の方：特別支援教育コーディネーター () 校内委員会委員 ()		
可能な勤務内容			
() に○：可能 △：経験は少ないが可能 ×：できない を記入 1. 小学校巡回相談 () 2. 中学校巡回相談 () 3. 高等学校巡回相談 () 4. 知的障害特別支援学校 小学部 () 中学部 () 高等部 () 5. 肢体不自由特別支援学校 小学部 () 中学部 () 高等部 () ☆ 2010 年度 月に [] 日程度 勤務可能 ☆ 勤務の制限、条件等があれば記入してください。			
日本臨床発達心理士会主催 全国研修 (テーマ別研修：特別支援教育) で受講したものを記入してください。			
有している他の資格 (心理・教育・医療・福祉に関わるもの) を記入してください。			